会 議 録

会議名称	第４回　長野市立長野中学校・長野高等学校改革検討委員会
開催日時	令和８年 10 月 13 日　　午前 10 時 00 分から午後 12 時 01 分まで
開催場所	市役所第一庁舎４階　教育委員会室
出 席 者	委員）髙口委員長、小林副委員長、千野委員、青木（十）委員、 青木（大）委員、常田委員、市川委員 職員）唐木教育次長 市立長野高等学校兼市立長野中学校　廣田校長 市立長野高等学校　原事務長、矢澤教頭 市立長野中学校　宮﨑副校長 学校教育課　山口課長、五明課長補佐
議　　題	(1) グローバルな人材育成について (2) ＡＸ時代の論理的思考の育成について (3) 論点整理について (4) 答申（提言）の構成について
議事内容 及び 決定事項	【報告事項】 議事に先立ち、部活動の現状と課題、教育改革の方向性等について、欠席の結城委員からの聞き取り内容を事務局から報告。 (1) グローバルな人材育成について ・資料に基づき、グローバルな人材育成に係る現在の取組及び期待する姿（今後考えられる取組）について事務局から説明。 【議事内容（発言要旨）】 青木（十）委員　外国の方との交流は、限られた機会を有効に活用していると感じた。グローバルな人材育成を考えたとき、外国の方との交流だけでなく、グローバルな発想を育むことが大切である。例えば、県立大学にグローバルマネジメント学部もあるので、講座の聴講など、県立大学との交流の機会を増やしてはどうか。グローバルな人材育成には、英語力の育成とともに、グローバルマインドの育成が重要である。 廣田校長　委員からご指摘のあったグローバルな発想・考え方を育むという視点は、重要な視点であるので検討していきたい。 千野委員　１年程度の長期留学を実施、支援する考えはあるか。 廣田校長　新型コロナウイルス蔓延以降、どの学校でも少なくなっていたが、昨年頃から再開し始めた。市立長野高校でも、２年生の生徒が自主的に１か月程度行くとの動きがある。生徒から希望があれば、応援していきたい。 青木（大）委員　長期留学の際の単位取得はどうなっているのか。 廣田校長　１年にわたる長期留学については 36 単位まで認定するこ

	とができ、留学した生徒が自分で同級生と卒業するか、下の学年に入るかを選べる仕組みとなっている。 市川委員　中学生のイングリッシュキャンプ等の経験を発表するようなアウトプットの機会はあるか。高校生も交えて、英語で発表するような機会があればいいと思う。 宮﨑副校長　探究英語 35 時間の中で、イングリッシュキャンプの準備やまとめの際、少し英語で紹介し合うことは行っている。他者を招いて英語で発表することについては、検討していきたい。 髙口委員長　中入生と高入生は、英語力に違いがあると思うが授業は分けているのか。また、定期試験以外に英語力を測定する取組みを行っているか。 矢澤教頭　授業は能力別で行っている。 宮﨑副校長　長野市立の全中学校の３年生でＧＴＥＣを実施しており、市立長野中学校では２年生でも実施している。 廣田校長　高校では全体として検定などは実施していないが、受検は推奨しており、検定に合格した生徒を全校集会等で表彰している。 小林副委員長　外国人の英語教師はいるのか。 宮﨑副校長　中学校にはいないが、高校は１人市費で雇用している。その方に、中学校の授業にも協力いただいている。 (2) ＡＸ時代の論理的思考の育成について ・資料に基づき、ＡＸ時代の論理的思考の育成に係る現在の取組及び期待する姿（今後考えられる取組）について事務局から説明。 【議事内容（発言要旨）】 青木（十）委員　ＡＸ時代においても、自ら問いを立て、その問いを解決しようと取り組む探究的な考え方はベースになるので、方向性はいいと思う。 市川委員　探究学習の中で、データ分析やアプリ・ＡＩの活用等による地域課題等の解決に取り組んではどうか。 矢澤教頭　現在、信州大学の先生の講義を受講している。今後、信州大学との交流を深め、探究学習の中でデータ分析し、それをどう活用するかまでつなげていきたいと考えている。 青木（十）委員　アプリの使い方を学ぶだけでなく、アプリを使って課題を解決していこうとする意識を育んでほしい。 千野委員　１年時に実施している「産業社会と人間」の中で、ＡＩの活用による労働需給のミスマッチ解消や産業構造の進展について意見交換する機会を設けてもいいのではないか。 市川委員　中学校、高校とも期待する姿にあるが、自ら問いを立てる

	力、質問力を高める力を育むプログラムを進めてほしい。 髙口委員長　『「問い」をもち、他者と協働することで深める授業』と中学校の期待する姿にあり、素晴らしいことだと思う。これを全教科で目指しているのか。 宮﨑副校長　全教科において目指しており、中学校の共通コンセプトにしていこうと、機会があるごとに伝え、理解を深めている。 (3) 論点整理について ・資料に基づき、検討項目（探究学習と中高一貫教育、グローバルな人材育成、ＡＸ時代の論理的思考の育成、部活動教化と指導者確保）別の論点整理について事務局から説明。 【議事内容（発言要旨）】 青木（十）委員　今までの議論のポイントが整理できていると思う。地域課題に触れる機会は重要なので、具体的な記載が欲しい。また、ＡＩやアプリは課題を解決するための道具という位置づけを明確にし、解決したい課題があってＡＩ等を使うという順序にしたほうが、より実践的な人材育成につながると感じた。 市川委員　市立長野は、多様な生徒が在籍していることが一つの強みである。以前の委員会で校長が話されていた、誠実さや努力といった共通の価値観で学校の一体化を図るということにも触れていいのではないか。 髙口委員長　今までの議論を振り返ると、地域課題を解決していける人材育成が重要であると感じている。多様な生徒がいる中、地域課題の解決といった共通の目標に取り組むことで、一体感の醸成が図られるのではないか。 小林副委員長　先の見えない時代において難しいことではあるが、皆が平和に幸せに生きてほしいと思う。中高生の人間の一番基礎的な時期に、人生において何が大事かというのを教えていってほしい。 常田委員　今の子どもたちは学ぶものが多く、元気がなくなってしまうときもある。そのようなときに、保護者と教師が一緒になって子どもを支える仕組みが大切だと思う。 髙口委員長　現在も生徒を支える仕組みはあると思うが、指導体制や生徒のフォロー体制の更なる充実という視点で答申に記載できればと思う。 市川委員　以前、副委員長が話されていた基礎学力を全員が身につけるという点について、基礎学力は十分に定着していると思うが、必要に応じて、探究学習の中で学びなおしや復習の機会を取り入れてはどうか。

	(4) 答申（提言）の構成について ・資料に基づき、答申（提言）の構成（案）について事務局から説明。 【議事内容（発言要旨）】 青木（大）委員　論点整理では議論のポイントがよくまとまっていた。これをどのように実現していくかが重要で、答申の中で進捗を評価、検証する仕組みに触れることも大切ではないか。 髙口委員長　目指す生徒像をきちんと書くことが大切である。また、生徒を支えるための指導体制についても記載したい。青木（大）委員からご意見があった進捗管理をする仕組みについても記載していきたい。 青木（十）委員　今回の市立長野の改革が、どこを目指しているかについても記載することが大切だと思う。また、目指す生徒像に加えて、目指す学校の姿についても記載していきたい。４つの柱の部分で、並列に扱われているが、探究学習と中高一貫教育が上位にあり、グローバルな人材育成等の３つはその具体化ではないか。 廣田校長　委員の皆様が探究学習への取組みを高く評価いただいたことから、現在のような順番で記載した。グローバルな人材育成とＡＸ時代の論理的思考の育成については、今後の日本の大きな課題と考えており、本日の議論を踏まえると総論的に先に記載することも考えられる。構成について、皆様からご意見をいただき検討していきたい。 小林副委員長　学校として、教員をどう育成していくかも大切だと思う。 千野委員　目指す姿を記載することは必要だと思う。個人的には、４つの柱の順番に違和感がないが、部活動と指導者確保をどこに記載するかが難しいと思った。部活動強化には教員育成も絡んでくる。また、過去の答申に記載があるが、現在表現されていないものをどう扱うべきか考えたい。 青木（大）委員　４つの柱の順番は、社会的背景の記載によって変わってくるのではないか。市立長野らしさを出す答申とするなら、探究学習を前面に出した今の構成でもいいと思う。 髙口委員長　本日の議論を踏まえ、事務局から構成案を改めて示してほしい。 原事務長　構成案をメールで送信するので、ご確認いただきたい。委員の皆様からご意見をいただいた上で、第５回の委員会では答申案を提示したいと考えている。 (5) その他 ・以前の委員会で質問があった前期選抜入学生の進学先等について事務局から説明。

会議資料	次第 資料１　現在の取組と期待する姿 （グローバルな人材育成、ＡＸ時代の論理的思考の育成） 資料２　検討項目別の論点整理 資料３　長野市立長野中学校・長野高等学校の改革について（答申・提言） 構成（案）
事務局 （担当課）	長野市立長野中学校　長野高等学校（担当：原） 電話 026-296-1241（直通）／FAX 026-296-1242
注１）会議録には出席者や発言者名を記載することとするが、氏名を省略するなど記載方法を審議会等で決定した場合は、その決定に従うこととする。	